

第5期 麻生区区民会議 第8回全体会議

- 1 開催日時 平成28年5月13日（金）午後3時04分～午後4時58分閉会
- 2 開催場所 麻生区役所第1会議室
- 3 出席者 [委員]
石井（よ）委員、石川委員、植木委員、上野委員、岡倉委員、小尾委員、金光委員、志村委員、菅野委員、高橋（慶）委員、高倉委員、林委員、山田委員、吉垣委員
（欠席）石井（郁）委員、白井委員、高橋（克）委員、宮本委員、横田委員
[参与]
老沼参与、勝又参与、木庭参与、月本参与、石川参与
（欠席）雨笠参与、花輪参与、山崎参与、相原参与
[事務局]
井上課長、福島担当係長、鈴木、佐藤、榎本
[関係者]
北沢区長、向坂副区長、小金井区民サービス部長、若尾保健福祉センター所長、猪又保健福祉センター副所長、木村保健福祉センター担当部長、鈴木道路公園センター所長、吉澤危機管理担当課長、川本総務課長、中村地域振興課長、
（欠席）三枝生涯学習支援課長
- 4 傍聴者 1人

第8回麻生区区民会議

日 時 平成28年5月13日（金）

午後3時から

場 所 麻生区役所第1会議室

午後3時04分開会

1 開 会

金光委員長 定刻になりましたので、それでは、第8回麻生区区民会議を開催したいと思います。

大変お忙しいところ、皆様方お集まりいただきまして、ありがとうございます。きょうは、いい天気にも恵まれて、きょうが我々区民会議の最後の会議になります。約2年間にわたって調査、審議を各委員の方々が真剣にやっただきまして、その成果をきょうこの場でもって発表する形になります。この発表した内容が1つの提言として市に対して提言する形になると思います。そういう意味合いで、きょうを締めくくりとして発表する段階で、さらに皆様方からいろいろな意見をお聞かせいただければ幸いに思います。また、皆様方、2年間頑張っていたことに対して、委員長のほうからもお礼を申し上げたいと思います。本当にありがとうございました。

2 議 事

金光委員長 それでは、本日の議事並びに資料について、事務局からご説明いただければと思いますので、よろしく願いいたします。

事務局 それでは、事務局のほうから、資料の確認の前に、この4月に区役所のほうでも人事異動がございまして、職員の異動がありましたので、そちらの紹介をさせていただきます。

まず、北沢区長でございます。それから、向坂副区长は昨年に引き続きでございますが、本日、所用のため、後ほど参りますので、ご容赦いただきたいと思います。次に、小金井区民サービス部長でございます。次に、若尾保健福祉センター所長でございます。次に、猪又保健福祉センター副所長でございます。次に、木村保健福祉センター担当部長でございます。次に、鈴木道路公園センター所長でございます。次に、吉澤危機管理担当課長でございます。次に、川本総務課長でございます。次に、中村地域振興課長でございます。最後に、三枝生涯学習支援課長でございますが、こちらでも本日所用のため、欠席とさせていただいておりますので、よろしく願いいたします。

それでは、配付資料の確認を続けてさせていただきます。一番上に、本日の会議の次第がありまして、次に、資料1として席次表、資料2として第5期麻生区区民会議委員・参与名簿、資料3として第5期麻生区区民会議報告書（案）、資料4として第5

期区民会議スケジュール、それから、参考資料としまして第7回麻生区区民会議議事録、そのほか、委員の皆様から、里地・里山だよりの活動報告号2016春、それから、主任児童委員のリーフレット、民生委員・児童委員のチラシ、以上を配付させていただいております。何か不足のもの等ございましたら、事務局のほうへお申し出ください。よろしいでしょうか。

続きまして、本日の議事でございますけれども、次第に書かせていただいております。本日の議事といたしましては、第5期麻生区区民会議報告書（案）についてとなります。また、先ほど委員長からもお話がありましたけれども、今回は最後の区民会議となりますので、議事の終わった後、後ほど委員の皆様から一言ずつ、この2年間の振り返ってのご意見やご感想をいただきたいと思っておりますので、よろしくお願ひいたします。

事務局からは以上になります。委員長、お願いします。

(1) 第5期麻生区区民会議報告書（案）について

ア 企画部会の取組内容や全体の構成等について

金光委員長 ありがとうございます。それでは、早速、議事に入りたいと思います。第5期麻生区区民会議報告書（案）のうち、ア、企画部会の取組内容や全体の構成等についてに入りたいと思います。

まず初めに、企画部会の高倉部会長から説明をお願いしたいと思いますので、よろしくお願ひします。

高倉委員 企画部会の高倉でございます。私のほうから、第5期区民会議報告書、お手元の資料3につきまして、企画部会がかかわりました報告書の構成と、あと企画部会の取り組みを記載した部分につきましてご説明させていただきたいと思っております。

まず、報告書全体の構成でございます。大きく言えば、ページをめくりながらごらんいただくといいと思っておりますけれども、最初に、第1章、区民会議について、次に、第5期区民会議の調査審議の内容について、それから、ずっと先になりますけれども、2月に開催いたしました区民会議フォーラムに触れまして、最後に、2つの専門部会からの提言、一番最後に資料編ということで、調査・審議の関連資料などを付けていきます。

後でご説明いたしますけれども、構成につきまして一言触れておきたいのは、第5章に提言だけをまとめて章立てしておりますけれども、各部会の審議内容の後にそれぞれつけたらどうかという意見もありましたが、第4期までの報告書のスタイル等も踏まえまして、今回の構成にさせていただきました。

それでは、少しずつ内容に触れながらご説明いたします。

まず、表紙をめくっていただきますと、「第5期区民会議報告書の刊行によせて」と

いうところがございます。ここにつきましては、金光委員長からの思いをいただいているところがございます。写真の欄、空欄になっておりますけれども、きょう、この会議が終わった後、委員の皆さんで写真を撮ったのが入ってくるのだと思っております。

次に、「第1章 麻生区区民会議について」でございます。ここは、区民会議とはということで、区民会議の設置の経緯や地域課題の把握から提言までのステップ、まだ、次のページからは、第4期までの審議の流れを含めまして記載してあります。この部分につきましては、レイアウトは若干変わっておりますけれども、第4期までの内容は変わりようがありませんので、それまでの報告書のスタイルを踏襲させていただいているということでございます。

次に、「第2章 第5期区民会議について」でございます。第5期区民会議における「審議課題の選定と審議の流れ」について記載しております。内容はごらんとおりでございます。委員の皆様の見意を中心とした地域課題の把握とか、整理に始まりまして、審議テーマの選定、ここで2つの専門部会の審議テーマと、あともう1つ、6ページの下のほうになりますけれども、第5期全体テーマ、「心がかよう魅力あるまちあさお」を掲げております。

それから、右のほう、7ページになりますけれども、一番最後のほうには、「会議の構成と役割」を図であらわしております。こういったところが第5期の流れでございます。

続きまして、「第3章 各部会の審議と取組について」でございます。私からは、企画部会に関連する部分だけ説明いたしまして、2つの専門部会につきましては、後ほど各部会のほうから説明していただきたいと思っております。

ではまず、企画部会関連でございますけれども、企画部会では、今期、Ⅰの「審議・調査・提言すべき課題の整理」からⅤの「区民会議報告書の作成」まで取り組みました。細かな内容につきましてはごらんとおりでございますけれども、Ⅰの「審議・調査・提言すべき課題の整理」につきましては、今期は第1回目の企画部会に全委員が出席いたしまして、ワールド・カフェ方式によるワークショップで調査・審議テーマを検討したところが特徴的なことだと思っております。その内容も記載してあります。Ⅲの「広報・広聴活動」のうち、区民会議ニュースにつきましては、(2)にありますけれども、現在、第5号まで発行して、第6号まで計画どおり発行できるという見込みでございます。ただ、ここで皆様方にお断りしておきたいのは、第6号は、提言を含む報告書の概要が内容になるということで、きょうの会議が終わった後になります。6月の発行予定でございます。きょうの会議が全体会議、最後でございますので、皆様方にご了解いただくのは、6月3日に企画部会があります。そのときに区民会議ニュースの内容をまとめますので、そこに一任していただくということで

お願いしたいと思います。それはよろしいですか。

金光委員長 結構です。

高倉委員 ありがとうございます。

それから、さらに（3）広聴活動でございますけれども、広聴活動につきましてはいろいろあるのですが、今期、区民の方々から5件ほどご意見をいただきました。区民会議関連以外の意見もありましたけれども、これにつきましては、きちんと対応するというのを念頭に、今後の区民会議も含めまして区民会議の参考にするもの、あと、行政関係各部署に伝えるものに区分いたしまして対応いたしました。また、区民会議ニュースの中で意見をくださった方に何らかの形で返答するという形をとるよう努めてまいりました。こういったところが広聴活動でございます。

次のページからは、各専門部会の審議内容でございます。若い世代部会に続きまして、市民活動部会のほうもでございます。

飛ばしまして、次、35ページ、第4章になります。ここには、区民会議として開催いたしました区民会議フォーラムについて掲載しております。これは先ほど申し上げましたとおり、2月に「健康寿命を延ばすには？」というテーマで開催した区民会議フォーラムについて触れています。内容は後ほどごらんいただければと思いますけれども、開催の周知期間、区民の皆様方に、いつフォーラムをやりますよというお知らせをする周知期間が短かった割には、110人の方々にご参加いただきまして、区民会議の認知度が若干でも向上してきているのではないかというふうに感じられました。また、参加者からのアンケート、ご意見等も非常に好評でございまして、フォーラムとしては大成功だったと思っております。重ね重ねですけれども、具体的にはこの中身をごらんいただければと思っております。

次に、「第5章 提言」でございます。また繰り返しになりますけれども、これも後ほど各部会から説明していただくということですが、この第5章の各部会の提言の後、一番最後のほうに、ページで言えば46ページ、ここに「第5期区民会議を振り返って」というページがあります。この内容につきましては、企画部会の各委員がいろいろな思いを出し合ひまして検討し、まとめてまいりました。基本的には第5期の区民会議はこんなに頑張りましたというような前向きな姿勢で書きまして、かつ、次期の区民会議につながるような問題提起もしてあります。内容はごらんいただくことといたしまして、大きな柱といたしましては、そこにありますとおり、テーマの選定、課題への取り組み、提言の具現化に向けて、区民会議の活性化に向けてというところがございます。後ほどごらんいただくことにいたしまして、先ほどお話もありましたけれども、企画部会以外の委員の皆様方も、区民会議を振り返っていろいろな思いがあるでしょうし、それはこの後また1人ずつ語る時間があるようですので、そのときに熱い思いを述べていただければというふうに思っております。よろしく申し上げます。

それから、47ページからは資料編ということでございます。各部会で使ったいろいろな資料、アンケート調査結果もありますし、チラシ等もありますし、区民会議ニュースもありますし、地域情報紙の記事まで全部あります。そういったもろもろのものを資料編としてここにとじてあります。そういった形でこの報告書が構成されています。

それから、最後になりますけれども、表紙をごらんいただきたいと思います。表紙につきましては、企画部会の林委員に原案をつくっていただきました。これまでの第4期までと若干趣を変えまして、写真を使ったところが特徴的なものだと思います。何をあらわしているかと、なかなか難しい部分があるのですが、表現内容は、各部会の審議経過や提言に関連しているということでご理解いただきたいと思います。例えば若い世代部会のほうでは「いなかのある都会」とか、市民活動部会ではボランティア活動とか、いろいろありましたけれども、そういったところもイメージしながら織り込んでいこうということで、こういった形のものを出ささせていただきましたと思います。

下のほうの丸3つの中の写真は、まだ若干準備が整ってなくて、後で入れかわりになるかと思っております。よろしくお願ひしたいと思ひます。

私からの説明は以上でございます。

金光委員長 どうもありがとうございました。

イ 若い世代が住みやすいまちづくり部会の取組内容と提言について

金光委員長 それでは次に、各部会の説明に入りたいと思います。まず、若い世代が住みやすいまちづくり部会につきましては、白井部会長が本日所用のため出席できないということでしたので、若者部会の取組内容並びに提言につきましては、菅野副委員長から説明させていただきたいと思ひますので、よろしくお願ひいたします。

菅野副委員長 若い世代が住みやすいまちづくり部会については10ページからになっております。よろしくお願ひします。

白井部会長がお休みということで、かわってということですから、余りはみ出さないように、まとめてきたものを読みながら報告させていただきたいと思ひます。よろしくお願ひします。

少子高齢化があと20年ぐらいたつと超高齢化になっていく。若者が少なくなって、人口も減って、地域が過疎化していく。この地域もそういうことになりますよと。麻生区にとっても課題であり、委員長の「刊行によせて」でも触れております。こうした社会状況を受けて、私たちの部会は、まちがいつまでも元気であるということはどういうことをしていったらよいのだろうかということから出発しました。方向として、子育て環境をよくして、麻生区の魅力をアップして、生産年齢世代の減少を抑え

ていく——減少を抑えていくというよりは、引き寄せていきたい。また、増加し、社会問題となってきた空き家について、それを利活用することによって、若い人たちの住宅事情の緩和につなげられないか、そうした意見を集約して、麻生区の魅力のブランド化とPR、空き家の利活用、この2つを基本的なテーマとして審議してきました。その審議・調査の過程については、これまでの7回の全体会議で白井部会長より報告があり、皆さんも了承を得ているところであります。

また、審議の過程、手順へのそれを進める前提となりました資料調査統計、ヒアリング内容等については、その時々提示してまいりましたが、この報告書では10ページから23ページに掲載しておりますので、ごらんいただければと思います。皆さんには初見ではないと思いますので、詳しい説明は省きます。

改めて強調しておくとしたら、あさ子育てフェスタの場をかりて、子育て世代の感じる魅力の調査をしましたが、その結果によって、部会の審議方向が転換したというところがあります。前回の全体会議において白井部会長から、若い世代が住みやすいまち麻生にするためにはどうするかと最初は出発した。そうなのですけれども、どうも若い世代が住みやすいのではないか、今ある麻生が住みやすいまち麻生なのだよということをPRしていこうと考えています。こういうふうには白井部会長のほうで発言しております。調査では、麻生区に住むことになった経緯について、若い人たちは、結婚をきっかけにした人が一番多かった、それから、次に出産をきっかけにした人が多かった、そういうふうには若い人たちが若い時代に特に大事にしたい事情のときにこの麻生区を選んだということは、それだけ住みやすい魅力ある地域として認識されていると捉えたいわけでありまして。

こうした審議、それから、報告を経て至りました提言の内容について報告します。23ページを見てください。麻生区の今ある活動のありようを花の形に模したものですが、この花びらに示した分野、それぞれが区民に働きかけ、参加を促し、十分に魅力ある活動をしてきていますことは、皆さんもご承知のことと思います。そこで、さらに活動している団体が一かたまりになって、太い幹となって、麻生の魅力を訴えて、若い人たちをもっと引きつけられないかということです。愛着が持てるまちであることを知ってもらいたいということです。

さて、若い世代が住みやすいまちづくり部会からの提言ですけれども、39ページをごらんください。ここは提言を読ませていただきます。「I 魅力に関わる団体の連携」として、「提言1 区民と行政が協働した組織体制をつくり、具体的な検討・取組を進める上で、「区民会議」を活用することや、「(仮称)麻生区魅力PR委員会」の設置を提案します」、「II 魅力の情報発信」として、「提言2 麻生区の魅力をPRする方法として、「麻生区のホームページの改善」と、「(仮称)麻生シティセールス・PR部門」の設置を提案します」、「提言3 麻生区の魅力をブランド化し、効果的に

PRをしていくための「キャッチフレーズ」を検討し、活用していくことを提案します」、「Ⅲ 空き家の利活用」として、「提言4 学生・若い世代や地域（町内会・自治会）、NPO・大学・民間業者等による地域ぐるみの仕組みとして、「空き家ネットワークの構築」を提案します」、以上、若い世代が住みやすいまちづくりを進めていくものとして3つの方向性と4つの提言をまとめまして、報告といたします。

以上です。

金光委員長 ありがとうございます。今の説明、ほか、委員の方々から補足、あるいは何か質問等ございますでしょうか。

ウ 市民活動・地域活動の活性化部会の取組内容と提言について

金光委員長 なければ、次の市民活動・地域活動の活性化部会の取組内容と提言について、岡倉部会長から説明をお願いしたいと思います。よろしくお願ひします。

岡倉副委員長 ありがとうございます。それでは、24ページの市民活動・地域活動の活性化部会からの報告をさせていただきます。私のほうは原稿を書いてこなかったのですが、整合性が合わなくなるかもしれませんが、お許してください。

まず最初に、「課題の把握」ということで、これまで課題を把握するに当たって、全体会議とか、グループワークですか、先ほど企画部会のほうからも説明がありましたけれども、そこでワールド・カフェですか、そういうところでいろいろな意見が出されました。そういう現状に対する意見とか提案とか、そういうふうなものが幾つも出されましたので、それを部会の中で審議して、分類したものがこれです。ここの一覧表になっているものです。活性化部会ということで、6つの丸があります。「活動団体への運営支援」とか、「地域人材の育成と人材活用」、「ボランティアの活動促進」、「シニア等の地域への参加」、「情報発信の環境整備」、「各団体の相互理解」という形で整理をしました。その後、これ、全部やるのではなくて、この中から選んで審議を進めていきたいと思いますということ、ここの緊急性大とか、必要性大とかと書いてございますけれども、その6つのものをこういうふうな形で置いてみました。

そうしたところ、この表を見ていただきますと、「地域人材の育成と人材活用」というのが、本来ならこれは取り組まなければいけない事項なのですが、これについては区役所のほうで平成26年5月に設置されているのですが、我々の区民会議は26年7月ですから、2カ月ほど前に、地域人材育成連絡会議というものが設けられていまして、これは行政はもちろんですけれども、関係団体とか、そういうところで構成されていたので、そこが検討されていくということなので、そういうことと、ここに書いてありますけれども、第2のときにもちょっと審議されているという、その審議を踏まえてこういう会議ができたということなので、それは見守っていきましようということになりまして選ばれたのが、そのテーマの選定のところにあります

「ボランティアの活動促進」を最優先テーマにして検討していきましょうという形になりました。そのあとのほかのものは、これを検討する中でそれぞれ整理していきましょうということになっています。

その次に、26ページ、「Ⅲ 解決策の検討」ということなのですが、これは、これまでの提案とか解決の方法について、ボランティアに関心のある人、活動している人の意識という点で並べかえをしてみました。こんなふうな形でボランティアをやっている人はそれぞれの段階で意識を持っているという形で並べかえをしてみました。

その次に、今度は具体的に、麻生区の人たちはボランティアについてどんな意識を持っているのだろうということで調査を開始しました。それが27ページに書いてあります、「具体的な審議内容の設定」のところですが、まず最初に、麻生区民の人はボランティアに関してどういう意識を持っているのかというのを、本来なら、1000人とか2000人ぐらいの人を対象にしたアンケート調査をすればいいのかもしれませんが、そんなこともできないので、これまでにある、ここにちょっと黒っぽく書いてありますけれども、川崎市とか内閣府でやっているそれぞれの意識調査を確認するという形にしました。それと、それだけではわからないので、実際に区民の皆さんから聞き取り調査をしようということで、聞き取り調査、対面しながらお話を聞くということをやりました。

もう1つが、関連施設の視察ということで、市内で老人の方が集まる麻生老人福祉センターとか、いこいの家についてはデータの調査をしたのですが、そういうふうな形で調査をしました。その中で実態調査の中からわかったということで、27ページにも書いてあるのですが、国の調査なのですが、ボランティアに少しでも関心を持った人は62%もいるということです。その中で、3年間にボランティア活動経験がある人は26%しかいないということなので、関心はあるのだけれども、なかなか活動に結びつく人は少ないのかなということもわかりました。

それと、25年度の市民自治の実態等に関する調査で、これは50歳から74歳の方を対象にした調査なのですが、社会活動、地域活動への関心度で、関心があるというふうに答えた人が市の平均で40.2%、ところが、麻生区は7区の中で1番なのですね。44.9%なのですが、4.7%しか多くないのですが、とにかく麻生区は社会活動とか地域活動に関心のある人が多いということがわかりました。その中で最も関心が高い年代というのは、男性が65歳から69歳なのです。ちょうど退職されて、その時期の方が関心があると答えたのは53.6%の方がいらっしゃいます。女性はもうちょっと年代が若くて、60から64歳の方が一番関心を示されて、43.9%という数字がわかりました。

その中で調べた中で、これは委員の中でもこういうふうな意見が出ていたのですが、麻生区の中には、自分の技能とか知識を生かしたいという人が非常に多いこ

とがわかりました。それも市の平均に比べて2倍以上になっていました。その結果が、平成27年度の新たな総合計画に関する市民意識調査の中で、自分の知識や技術を地域や社会に生かしたいというふうに、そう思う、ややそう思うという人は、麻生区は59.6%です。6割近い人がそういうふうに思っている。市全体では50.8%です。当然7区で一番高いということで、麻生区には自分の知識や技能を生かしたいというふうに、社会のために役に立てたいという人が大勢いるのだなということがわかりました。

じゃ、65歳以上の方がどのぐらい毎年麻生区では生まれると言ったら変ですけども、地域に帰ってくるのかということ調べましたところ、これから10年、20年、2000人ぐらいの人が毎年地域に戻ってこられる。ですから、その分と言ったら変ですけども、昼間人口がふえていくのかなということになっています。統計で見ますと、これは総合計画の人口推計ですけども、平成37年、いわゆる2025年問題と言われるときには、これを調べたときには、平成26年の10月では65歳以上の方が21.7%が、平成37年（2025年）には26.7%になると推定されていることもわかりました。とにかく毎年2000人以上の人が来るのだなという、そんなことが具体的にわかりました。

そういうことで、27ページの具体的な審議内容のところ、ボランティア活動をしたい人や関心のある人、そういう人たちに、とにかくボランティア活動に気軽に参加できる仕組みを検討していこうということと、対象の設定ということで、シニア世代を想定しました。

その次なのですけれども、28ページ、仕組み・仕掛け。シニア世代の人たちにボランティア活動を知ってもらうにはどうしたらいいかということをお考えまして、そのときに、市のほうで川崎市シティプロモーション戦略プランがそういう報告書がなされていて、そこに情報の受け手の段階に応じた情報発信することが大事ですよと書かれていましたので、そういうふうな視点からやってみましょうということで、麻生区健康づくりのつどいに、ボランティア活動に参加して、健康寿命を延ばしましょうという、シニア世代の方に訴えるという、そちら、受け手の立場に立った情報発信をして、ここで区民の方から、ボランティアに関する意見を聞いたということです。

その次のページが、「区民との意見交換の実施」と書いてございますけれども、平成27年の10月に健康づくりのつどいということでテントを張らせていただきまして、ボランティアに関して参加された方と意見交換をしたという内容になっています。このときは、健康づくりというのは、私どものほうでは、ほかのほうは体のぐあいという形でアプローチされていましたが、心の面からこういうふうなことが大事ですよということをお話をさせていただきました。

その結果が、その次のページにいろいろ内容が書いてございます。後で読んでいた

だければと思います。

31ページを見ていただきたいと思います。31ページの「提言の方向性」というところです。ここがそれぞれ意見交換をしまして、ほかの統計の調査とかも念頭に置きました中で、それぞれ意見交換をして、ここの「主な意見」というところなのですけれども、ここが今後の提言の内容に大きな影響を与えています。まず最初の丸のところなのですが、「参加への「あと一押し」が重要。それが「友人や知人の誘い」なのかもしれない」、その次の次ですけれども、「話を聞くとボランティア活動を始めようと思いつきかけは、人それぞれで異なる。その一步を踏み出す人のストーリーづくりに協力したい。何かしらの特技があると教えたいという気持ちから外に出る」とか、その下の下のその次ですけれども、「次のステップに繋がる講座があちこちにあるとよい。まだまだ活躍できる場があると思わせるような仕掛けが必要だと思う」。その下、これも提言の中になってくるのですけれども、「そもそもボランティアが増えることは豊かな地域社会を築くという前提があつてこそその話。そのことをまず周知することが大切。ボランティア活動は一石五鳥といってもいいほどの価値がある」、こういうふうな意見が出されています。これが次の提言の内容に大きく反映されています。

この意見交換をしまして、「提言の方向性」と書いてあります。ここでは情報の話が問題になっています。ボランティア活動へ一步踏み出したい人、ボランティアを集めたい団体、その双方からの流れをよくするという事で、よく調べましたら、団体からの情報はいっぱい流れているのです。それぞれ分野ごとで流れていますから、それを受けとめるほうは大変です。受けとめるほうのボランティアをしたいという情報がほとんど流れていないということがわかりました。

それでは、次のところになります。32ページ、施設ということで、世田谷のボランティアセンターに視察に行つてまいりました。ここは30年余り前からボランティアセンターということで活動しているのですけれども、これ、立ち上げは市民と世田谷区がパートナーシップを組んで誕生させたということです。現在は独立しまして、社会福祉法人となっています。ボランティアセンターと介護事業を両方やられていて、今では世田谷ボランティア協会という形になっています。

ここでボランティアセンターに行ったときにちょっとびっくりしたのは、ボランティアセンター協会を支える会というのがあるのです。その支える会というのがボランティアなのです。文字どおり、みずからがボランティアになって、手足を動かして、その協会を支えるという仕組みがありました。それにも増して資金面でも支えているのです。皆さんがやりたい事業に対して資金を出すという形で、そういうふうな流れの中で、ここのボランティアセンターというのは、完全に独立している。ですから、行政から独立してやっているということの説明がありました。

次に、34ページを見ていただきたいと思います。34ページの図なのですけれども、

これは、これまで提言内容についていろいろ委員の中で考えまして、その各委員の考え、重要なものをポストイットに記入していただいて、それを整理、分析した表がこれです。その結果、左のところが基礎的な仕組み、右のところが理想的な仕組み、上が効果的な情報発信、参加への一押しということで、ボランティア参加のきっかけづくりという形で皆さんの意見を分類して整理しました。これが結局は次のページの提言に結びついていくものです。

それでは、42ページの提言です。これまで調査、審議しましてわかったことなのですが、川崎市のほうではどうもボランティア活動に参加する人をふやすことを積極的に取り組んでこなかったのではないかとということがわかりました。それが、違うよ、積極的に取り組んできたよというふうに言われると、そうなのかなというふうに思うのですけれども、部会の中で見る限りでは、例えば全市の市民活動の支援拠点ということで、財団法人の川崎市民活動センターがございます。ここで市民活動相談をやっているのですけれども、26年度は週3回の午後だけということなのです。ですから、ここは全市の市民活動の拠点であり、ボランティアする人たちの拠点でもあると思うのですけれども、そこで週3回、午後だけというふうなことは、ボランティア活動に参加する人をふやしていないのではないかと、ふやすということを積極的に取り組んでこなかったのではないかとというふうに考えます。

もう1つ、これは私が言っているのですけれども、介護ボランティアのポイント制度がございます。横浜市はやっているのですけれども、1万3000の方がボランティアで活動しているのですね。川崎市の周りを見ますと、ほとんどこういう制度がございます。ということは、ボランティア活動に参加する人をふやすということを積極的にやってこなかったことがわかりました。

そして、もう1つは、ボランティア、市民活動に関する事業について総合的にコントロールすることを行政はやってこなかったのではないかと、だから、これだけいろいろところでボランティア活動、市民活動をやっているにもかかわらず、それが分野ごとで調整、連携とかされていない、そんな形でやられて、そういうことでこういう問題が起きてくるのではないかとということがわかりました。

もう1つは、とにかく麻生区は元気なシニアの世代が多いのです。毎年2000の方が新たに地域に帰ってくるのではないかとということ。そして、その中で、麻生区で65から74歳、そういう人が2000人ぐらいいらっしゃいます。26年の10月ですけれども。要介護とか要支援認定という方は多分5%ということで市のほうは発表されていますので、そうすると、元気な人が1万9700人ですか。半分の人がボランティアとか地域活動に参加したいというふうにと考えたら、8800人もの方が関心がある、その人たちにぜひ参加してもらいたいということで、提言を書いてございます。

まず最初の提言なのですが、これは「ボランティア活動の土壌づくりに向けて」と

ということです。「誰もがボランティアを身近に感じ、ボランティア活動に参加しやすい機運を高めるために「ボランティアのまち・あさお」を掲げることを提案します」ということです。これは先ほどの絵にありますように、とにかくボランタリーな活動が浸透した人と人が支え合う暮らしやすい地域社会を将来イメージとして、「ボランティアのまち・あさお」を掲げることで、ボランティア活動の土壌をつくることができます。ボランティアと言うと、今はそれほどなくなりましたが、身を犠牲にするとか、世のためとか、人にしてあげるのだとか、自分が特別な技能を持っているからそういうことができるのだとか、そういうふうなことばかりではなくて、自分のあいた時間にちょっとお手伝いをするすることができる時代になればいいなという形で書いてございます。

その次の提言2については、「「あさおボランティア情報センター（仮称）」を拠点とした、ボランティア参加のネットワークを構築することを提案します」というふうに書かせていただきました。ここはⅡの「「あさおボランティア情報センター（仮称）」の設置に向けて」ということで、部会では、あさおボランティア情報センターを設置してほしいということです。これ、先ほどお話ししましたボランティア市民活動について、総合的なコントロールがどこもなされていない。そういうことであっては、なかなかボランティアというのは進まないのではないかと。そういう中で、あさおボランティア情報センターが必要だということです。

まず最初に取りかかることとして、ボランティア参加のネットワークを構築することを提案しました。それは区内には市民団体、地域団体、中間支援組織、それぞれいろいろな団体がございます。そういう参加につながる資源というのですか、そういうのを1つ結びつけることによって、あさおボランティア情報センターができてくるのではないかと。そういうふうに思います。これは私の私見で部会の中で議論していないのですけれども、区役所の改革の基本方針が3月に出されましたよね。区役所の目指すべき区役所像の1つに、「共に支え合う地域づくりを推進する区役所」と書いてございます。「共に支え合う地域づくり」を形にする、仕組みにするというのが、あさおボランティア情報センターではないかと思えます。こういうふうな視点でこの提言を受けて検討していただけたら非常にありがたいなというのは、私の私見です。

その次が「ボランティア参加のきっかけづくりに向けて」ということで、提言3と提言4を掲げさせていただいています。これは現在活動しているボランティア関係団体や機関、市役所とか区役所、社会福祉協議会、市民活動団体で、この提言3と4は取り組んでいただくことで、ボランティア活動への参加のきっかけとなって、ボランティア参加者がふえるというふうに考えています。

まず最初の提言3については、「ボランティア情報の効果的な発信とともに、情報の一元化の取組を進めることを提案します」と書いてございます。その下の点々の括弧

の中で、ちょっと小さい字で書いてございますけれども、これは効果的な発信、情報の一元化を進めることに当たって、具体的にどういうふうにしたらいいのかということでの出されたアイデアです。本来ならこの1つずつについて部会のほうとして、麻生区の手法としてはこういうふうな内容になりますというところまで検討したかったのですが、そこまではできておりません。

提言4では「相談窓口の連携、入門講座や体験講座の開催等を通じて、ボランティアに関心を持った区民に対して「参加への一押し」をすることを提案します」と書かせていただいています。点線の中は同じような、部会の中で出されたアイデアの中で一押しのもを掲載させていただきました。

それと、「実現に向けて」のところなのですが、この提言3と提言4は、並行して、関連していますので、同時に進めると、より効果があるという内容になっております。

長くなりました。ありがとうございました。

金光委員長 どうもありがとうございました。これで各部会の説明が終わりましたけれども、これについて何か意見。

植木委員 意見ではなくて、小さなことですが、これは原稿をいただいたときにチェックすればよかったのですが、チェックが漏れておりました。25ページ目です。「地域人材の育成と人材活用は、第2期区民会議」と書いてありますけれども、これは第3期でございますので、そこだけ訂正していただきたいということです。

金光委員長 わかりました。

そのほか何か追加すること、あるいは意見等ございますでしょうか。——ないようですね。十分に皆さん方、2年かけて審議してきましたので、またここでいろいろな意見が出てくるということはないと思いますので、皆さん方の意見がここへ集約されたというふうに思います。この説明を踏まえて、きょうのご説明について、皆さん方の異議はございませんね。賛同していただけるというふうに思います。承認が得られたというふうに捉えていきたいと思います。

今回のこの報告をベースに、完全な報告書が実はまだでき上がっていません。これはでき上がるのが6月中旬ぐらいになると思いますが、きょう、区長に対して提案書を提出する形になりますけれども、これは模擬の形であります。ご了承していただきたいと思います。6月下旬ぐらいに皆様のところ完全に印刷されたものをお届けされると思いますので、ご了承いただければと思います。

それでは、これで区民会議の最終の会議になりますので、それぞれの区民会議の委員の方々から、2年間振り返って、私たちはこんなに努力してきた、私もこんなふうな形で参加して、いろいろ意見を述べてきて、こんなふうな思いがありましたということ振り返って、1人1分弱ぐらいで簡単に感想を述べていただければと思いま

す。まず吉垣委員からスタートしてずっと回っていきたいと思いますので、よろしく
お願いいたします。

吉垣委員 こんにちは。吉垣と申します。若い世代が住みやすいまちづくりに所属いたし
まして、いろいろな立場の方々と話をしていく上で、子供のことだけではなく、幅広
く考えることができ、勉強になったなとすごく思った2年間です。私は民生委員児童
委員協議会の主任児童委員のほうから推薦されて来たのですが、宣伝なのですが、
こちらのピンクのリーフレット、今年度私たちがつくったリーフレットですの
で、もしよろしければおうちに帰ってから、主任児童委員とはということで見ていた
だければと思います。あと、民生委員児童委員協議会でチラシがありますので、見て
いただければ、民生委員・児童委員がどういう感じで仕事をしているのかなど。民生
委員・児童委員もボランティアでやっていますので、見ていただければと思います。
民生委員・児童委員の中の一員としてやっていたのですが、こちらのほうに参加
させていただいて、空き家のこととか、子供から老人のことまで、いろいろ話が出
るんだなと思いつつ、会議に参加させていただきました。2年間本当にいろいろあ
りがとうございました。(拍手)

山田委員 山田でございます。若い世代が住みやすいまちづくり部会で2年間やってまい
りました。中心のテーマは、人口減少が進んでいく中で、子育て世代にとって何が魅
力かということをもっと探って、環境づくりを進めるとするのが一番大きい問題だと
感じてきたわけですが、子育て世代のいろいろな問題を進めていく中で、前期から引
き続いて、保育所の充実、運営を1つの柱として取り組んできているのですが、
麻生区の場合、川崎市全体もそうですが、認可保育所を中心に施策が進められて
いまして、それ以外の学齢前の子供が通う幼稚園等についてはまだまだ力不足、さら
に答申の中に出ています、お母さん方が強く関心を持っています、4歳、5歳を過ぎ
た後の小学校以降の問題、これについてももう1つ強いアピールが少ないのではない
かという声も出ていまして、ここに子育て世代をさらに呼び込むために何をPRした
らいいですかというところに、3番目、4番目に出っていますが、学校環境が麻生区
の場合、非常にすぐれているので、この辺もPRしながら施策の運営も、認可保育所を
さらに充実させるとともに、幼稚園、さらに小学校に向けて保護者の安心感を充実さ
せていくことが、お母さん方の非常に強い希望だということを感じました。私の意見
も兼ねて報告します。(拍手)

林委員 林でございます。私は公募委員ということで参加させていただきました。市民活
動活性化部会に所属いたしまして、企画部会にもということでお声かけいただきまし
て、2つの部会に参加させていただきました。平成17年に川崎市自治基本条例ができ
ますときに、その策定に私の知人がかかわっておりまして、その方から策定の過程を
さまざま聞いておりまして、川崎市でもこういう条例ができるのだよということを知

いておりました。市民自治によるまちづくりというのは実際にはどういうことなのだろうというのは、一般区民として、普通の主婦として家庭におりますと、なかなかわかりにくいものではありません。しかし、地域の中で私は環境の活動を主にやっておりますけれども、それに加えて食の安全には大変興味がありまして、料理講習なども行う中で、若い人たちにさまざまなことを知っていただきたいという思いもありまして、今回、公募という形で入ったのですけれども、市民目線でさまざま意見が言えて、そして、行政とともに、市民としての立場で提案を書いて、まちづくりを進めていくといった手応えを感じる事ができた2年間だったというふうに感じております。

どれだけ役に立ったのかなというふうには思いますけれども、私なりにさまざま勉強もさせていただきました。高齢者に主にターゲットを絞ったというのは、期中で地域包括ケアシステムというお話を大変勉強させていただきまして、まちづくりは大変重要だということと、それから、地域の中でお互いさまの助け合いはすごく大事な、そこからボランティア大事だなという、私の発想がそこから来ているのですけれども、私自身は去年の暮れになりまして、自治会のほうでできております、福祉コミュニティといって、自治会の中で助け合いを広げていこうといった組織にも入れさせていただいて、もう少し自分の足元からも考え直していくというきっかけにもなったこの2年間でした。どうもありがとうございました。(拍手)

高橋（慶）委員 地域活動の活性化部会の高橋でございます。地域活動の活性化部会は、各団体のトップの皆様が委員会の委員長となった感があります。毎回出席率も90%と、意見の白熱化は素晴らしいものだと実感しております。それで、当初、いろいろ市民活動・地域活動に考えてまいりましたが、最終的にはボランティア活動に絞られていたと思います。私は地域活動の直接の提言にはもう一歩という思いを抱いております。2月に、先ほどお話がありましたように、健康寿命フォーラムが行われました。これにつきましての参加者の皆様が70歳から79歳が49.3%、80歳が14%ということで、63.3%、出席した皆様、いかに健康寿命を前向きに生きていくことを真剣に考えていらっしゃるかということを感じられました。私は地域の町会長をしておりますので、地域の中を見渡してみますと、65歳以上のシニア世代の核家族化が3分の2以上進んでいると考えております。地域の悩みというのは、20年ぐらいまでは老人会活動が活発だったのですが、今現在のシニア世代というのは、65歳から75歳の方は、決して自分は老人ではないというふうに考えていらっしゃるしまして、老人会にはまだまだ、80歳からというふうな考えをお持ちの方が多く感じております。

このフォーラムに参加されました方のアンケートを見させていただきますと、地域の皆さんが考えていらっしゃるということは、1つはボランティア情報の一本化なのですね。どれぐらいボランティアに情熱を持っているかといいますと、ボランティア

は生活の一部ではなくて、余生を適度に楽しみながら、時々ボランティアで生きがいづくりをしていきたいという、その中で健康寿命を確保していきたい、そういうふうな地域の中では余り高尚な議論とか、そういうことではなくて、現実的な生活の中でそういうふうな実態がありまして、私たちがいつも委員会では、妻から夫を一押しという言葉がある程度常識的になっているのですが、声かけが、やはりそういう状況ですので、あさおボランティア情報センターの設置も提言されておりますが、区民の皆様への提言は、生き生きボランティア活動をどのように考えていったらいいのか、そういうふうなやさしい、もうちょっとレベルの下がったところから重い腰を上げられるような、地域の中でそういうふうな活動がいっぱい広がっていくような景色を私は考えております。そういうことで、ボランティア活動に対しての地域の現実化をお話ししてみたいと思っておりました。ありがとうございました。(拍手)

高倉委員 高倉でございます。私は、企画部会と、あと市民活動・地域活動の活性化部会をやらせていただきました。企画部会のほうはどんなことをやったかというのは先ほどご説明したとおりでございます。ある意味、淡々とやったということでございます。市民活動・地域活動の活性化部会のほうは、当初、テーマが市民活動・地域活動ということで非常に大きかったものですから、迷走ぎみだったというのが印象でございます。その中で議論を重ねる中で、ボランティア活動に焦点を絞ったということで何とかできてきたというふうに思っております。

この審議の中で一番印象に残ったのは、ボランティア活動とは何ぞやみたいな部分で、ボランティアの形にはいろいろあるのですけれども、その基本精神は、先ほど岡倉部会長がおっしゃいましたけれども、誰かに対して何かをしてあげるということではなくて、あなたがいるから私がいるという、心が寄り添うみたいな、そういったところにあることがわかりました。私自身もボランティア活動を日々やっておりますけれども、非常に参考になるなということで、あなたがいるから私がいるみたいな、そういったところが参考になるなと思っております。

今の思いは、いろいろな議論をしてみましたが、第5期で積み残しの部分が非常に多いんです。そういった議論もありますし、積み残した部分がありますので、何とか第6期あたりにつなげる方法はないのかということ、つなげていきたいというのが今の思いでございます。2年間ありがとうございました。(拍手)

志村委員 志村と申します。よろしくお願いいいたします。私は、若い世代が住みやすいまちづくり部会のほうに参加させていただきました。私の出身母体が観光協会からありますので、若い世代の方が麻生区にもっと魅力を感じていただけるような、目に見えるもの、心に感じるものを観光協会としてもっとアピールしていきたいという思いもありましたが、力足らず、ガイドブックも出来が余りよくなかったようでございました。

区民会議に参加させていただいたのですけれども、初め、観光協会の会長から、行ってらっしゃいと言われて、何だかよくわからないで参加させていただきましたが、金光委員からいろいろ助言をお聞きいたしまして、麻生区はこんな区になってほしいとか、あと、まちづくりを真剣に考える目を持ってこの2年間で目を培われたと思っております。ほかの区の区民会議の方とかの意見も話をいろいろ聞く機会もありまして、私たちの麻生区がまたよりよく発展していけばいいなと思っております。2年間ありがとうございました。(拍手)

小尾委員 小尾と申します。私は健康づくりの分野から参加させていただきました。参加するに当たって、普通の人目で見たいということでしたので、余り難しくは考えなく参加したのですけれども、参加しましたら専門家の方がたくさんいらっしゃいまして、とても勉強になりました。私自身としては、市民活動・地域活動の活性化部会をやらせていただいたのですが、それでボランティアの関係なのですが、普通の方の考えですと、ボランティアはもう1つの居場所づくりだよという感じがとても多いのです。というのは、私は市民館で生涯学習相談員をしておりまして、定年をされた方とか、新しく越してきた方が相談に見えるのです。それは趣味のサークルに入りたいというのが主なのですが、そのときに、ボランティアはいかがですかということも伝えるのですが、趣味からボランティアへなかなかつながらない。一番いいのは趣味をボランティアにつなげていただくのが一番かと思っておりますけれども、そのときにも声かけをしてやっているのですが、なかなかうまくいきません。ところが、最近うちの主人が定年になりまして、私がこういうことをやっていると申しましたら、一緒にボランティアをしようというので、1つは一緒にボランティアを始めました。もう1つは、私のお友達の紹介で、障害者の関係のボランティアを始めました。だから、声かけというのはやはり大変必要だと思いました。

それと、私が強く思うのは、ポイント制度をぜひ入れていただきたいと思うのです。私も趣味で太極拳をやっているのですが、皆さん、健康なのでボランティアをやりましょうと言いますと、なかなか趣味のほうが忙しくてと言うのですけれども、例えばポイント制度があったらどう？と言うと、あっ、それならやるわと、すぐ乗るんですね。ですから、次はぜひポイント制度を導入していただきたいと思っております。2年間ありがとうございました。(拍手)

上野委員 上野と申します。若い世代が住みやすいまちづくりの部会に所属しておりました。先日、私、49歳の誕生日を迎えました。子供は小学校2年生です。そんな私が若い世代と呼んでいただけるかどうか微妙かなと思っております。私は子供を連れて日本全国をふらふらしております。気に入ったまちで遊んだりしています。それで見つけたまちが、1つは神奈川県の開成町です。あそこは夏になると毎週のように行きます。何となくまちとしてすごくいいなと思って行っていたのですが、今回、若い世代

のほうの調査で上がっていたように、どうもいろいろまちが活躍されているところなのだなと思いました。改めて開成町、何がいかというと、人が挨拶してくれるとか、自由な雰囲気がある、自然があるとか、あと、あそこは夏、キャンプを張っても怒られないという珍しいまちです。好んでよく行っています。

あともう1つが、子供が囲碁を始めたので、碁盤を買いにということで、宮崎県の綾町に行きました。綾町も何かいいなと思って、去年の夏、2週間ぐらい、長期滞在していました。やっぱりそこも自然があって、空気感が非常にいいところです。

その町2つ、共通点がありまして、町がいろいろと動いているという感じがします。どうして動いているのだろうかと思って見てみますと、町長みずからが音頭をとって動いているということと、住民の方がいろいろな積極的なイベント、活動をされていました。綾町の町長の方とお話する機会があったのでお話をさせていただいたのですが、そのときの言葉が印象的で、何でもかんでも役所、町に頼られても困るんだよね、住民でやれることはやってほしいんだよねと言われたことが1つと、あとは、その町長、個人的には、町のために私は生きているみたいな使命感を持っているということを書いていたのがすごく印象的でした。

私自身は、20年ぐらい前、麻生区に引っ越してきました。引っ越すときも、僕自身は日本全国ふらふら歩いて、東武線、東横線、池袋線、全部の電車で、首都圏から30分か1時間圏内のところのまちは一通り見ております。その中でどこに住もうかなと考えたときに、候補として残ったのが、伊豆の河津町と小田原と、あと麻生区です。最後はどこにしようと考えて、うーんと考えた上で、麻生区のこちらのほうに来た次第です。もしも私が若い世代と呼んでいただけるのであれば、きっと麻生区は魅力あるまちだと思いますので、ぜひよろしく願いいたします。麻生区の事務局の方、2年間どうもありがとうございました。(拍手)

植木委員 ポイント制度なしで日々ボランティアを楽しんでおります植木でございます。

私は第3期の区民会議の委員のときに、もう区民会議の課題は出尽くしただろう、いかに誰がやるかという視点が必要ではないかということで、担い手の育成と発掘を提案させていただきました。その結果、地域人材育成連絡会議が立ち上がりまして、大変楽しみにして、意気揚々と参加したわけでございますけれども、実質2年間、何をやったか、空回りの状況でございました。それは全体での方針がはっきりしていなかったせいだと思っております。そういう中、今期の第5期の中で、具体的な進め方とか、こんなふうやっていこうという内容が出てまいりましたので、非常にファイト満々、楽しみにこれからそういった活動をしていきたいと思っております。ぜひ来期もそんな形で、いい麻生区ができるように、私は麻生区大好き人間でございますので、そんなイメージを大切にこれから、まだまだ若いつもりでございますので、ぜひ頑張っていきたいと思っております。いろいろと皆さんにお世話になりました。あり

がとうございました。(拍手)

石川委員 地域活動・市民活動の活性化部会に入っております石川と申します。この活動に参加するまでは私は川崎都民ではなかったかと思えます。なぜかといいますと、駅が鶴川ですので、どっちかという、町田に行く機会が非常に多いのですね。それで、川崎のことは余りわからなくて、参加させていただいたのですけれども。その中で一番興味があったのは、平均寿命とそれから健康寿命を同じ年齢にするにはどうしたらいいかということで非常に悩んでいたわけなのです。平均寿命と健康寿命を一緒にするには、まず食事と運動が大切なのではないかということで、食事のほうは、小尾さんと同じように、食育推進委員というところに入りまして、木曜日に第1と第3は柿の実というところの配食をやっております、それから、土曜日は、今度は岡上に去年の10月に、ふれあいという配食を立ち上げました。最初は15名ぐらいの配食をやろうかなという感じだったのですけれども、手伝ってくれる人も15名ぐらいおりますので、最近では27名ほど申し込みがありまして、見回りと、配食を渡しながら、皆さんが元気かどうか見てくると、話が非常に長くなるのですけれども、年をとられている方はお話がしたいのだなということで、少し川崎の市民になっていきつつあるのかなと思えます。

それから、ここに入らずと前は旅行会社におりまして、それで日本全国はほとんど行ったのですけれども、行くところないから、添乗員もやめようかということで、やめて、川崎の麻生区、何かないのかなと思ったら、この前、こんないいものを、観光協会で作られたものなのですけれども、これを見まして、あら、こんなにいっぱいたくさんあるんじゃない？、片っ端から全部行こうと思ひまして、5月6日は、観光協会が主催させていただきました、黒川の村を見ようということで、西光寺というお寺に行きまして、天井の龍の絵を見させていただいたり、こんなところにこんないいものがあるんだとか、鎌倉時代のとか。全国のほうは、京都なんかには何回も行ったのですけれども、麻生区にもこんなのがあったんだということで、それで5月8日は、和光大学が岡上と非常に近いですから、ここの体操に入っております、王禅寺とそれからふるさと公園という、60周年ですか、そこを見てきたのですが、ここにもすばらしいお寺があるんだということで、ことしじゅうにこれを全部回りまして、麻生区をもう少し宣伝していきまして。全国、いろいろ回ったのですけれども、もっともっと麻生区に入っていけたらなと思っております。よろしくお願ひします。(拍手)

石井(よ)委員 麻生区大好きな石井でございます。市民活動・地域活動の活性化部会を務めさせていただきました。2年がたつというふうにおっしゃられたのですが、1年ぐらいかなみたいな感じで、あっという間だったなと思っております。私はどんなまちも人間が暮らすまちは大好きで、まちづくりとか、地域づくりに心意気が感じられるまちはどこにでもあるものです。でも、とりわけ麻生区はまだ若いのですから、昭和57

年からですから、そういう心意気とかがとてもわかりやすいまちなのではないかと思っていますし、自分たちが自分たちでまちをつくっていかうという心意気はかなり高いものがあるように、この20年ぐらい思っております。

活性化部会なのですけれども、とてもおもしろい部会でした。第5期のテーマが「心がかよう魅力あるまち あさお」となっておりましたけれども、私はこの地域活動の活性化部会のほうは、心が通う魅力ある部会だったなど、それぞれがそれぞれの出自を離れて、それぞれの個性を離れて、一生懸命麻生区の1人1人がこれから幸せに暮らしていけるような、何とかそういうものができないかなという思いが、皆さんそれぞれお持ちになっていて、そういう優しさがあった部会だったなど思っていて、そこに所属できたことを感謝申し上げます。

もちろんそれを支えてくださったのは企画課の職員の優秀な方々、これは本当に久しぶりに公務員という方々にお会いできたなど思っております、これもまた、すごい若い職員がここまで民の幸せを思って汗してくださるのは久しぶりに感じまして、ありがたいなと思いました。市民自治創造フォーラムを長年やっていたけれども、それが市から区になって、区の基本自治条例なんかもできていければなど、そういうのに（仮称）情報センターが一步踏み出すための土壌になっていければいいなと思いますし、そのときにぜひ協働と連携を、市民活動だけではとてもとてもできませんので、よろしく願い申し上げます。ありがとうございました。（拍手）

岡倉副委員長 私は、市民活動・地域活動の活性化に入りましたので、私個人としては、ボランティアというのはこれまで余り体験してこなかったもので、2年間、そういう機会があったらやってやろうということで、福祉の分野も環境の分野も芸術とか舞台、スポーツのボランティアもやりました。料理のボランティアとかもやりました。そして、いろいろな関係の団体でボランティアをすることで、ボランティアというのは、どうやってやればボランティアの人も喜んでもらえるのだろう、活動もうまくいくのだろうというふうなノウハウを学んだように思います。私はその1つの中で、誓約書を書かされたことがあります。その誓約書というのは、このボランティアをする組織を批判してはいけないと書いてあるのですよ。なるほどなど思っています。ボランティア同士で批判するのはだめですよというふうな。そういうのをボランティアをすると非常によくわかりました。

私はボランティア活動の中でよかったことは、本当に多くの笑顔に会えたことなのです。ボランティアをする人もボランティアを受ける人も笑顔に会えました。子供たちの笑顔というのは、私も年ですから、最高でした。本当に喜んでもらって。市長が言っている最幸というのですか、最も幸せというような、そんな笑顔に出会えると最幸だったなというふうな感じがしました。そういう経験の中で、私はこの部会をうまく運営できたらしいなということでいろいろやってきました。

区長に最後で、本来ならここで感謝しなければいけないのでしょうかけれども、皆さんにいろいろ協力していただいているということなのですが、あさおボランティア情報センターの設置に向けて、私たち部会員は、声をかけていただければすぐ参加して、努力は惜しまないと思います。いつでもいいですので、声をかけていただければ、参加して、これまでの経験、いろいろな知識、そんな大層なものはないかもしれませんが、ボランティアに参加したいと思いますので、よろしくをお願いします。

以上です。(拍手)

菅野副委員長 先ほどは代理報告ということで、少し整理し過ぎましてと自分では思っているのですが、2年間、長い時間かけて審議してきたものを少し軽くしてしまったのかなという、ちょっと今、後悔しています。部会としては、とりわけ、白井部長としては、協働の組織体制をつくってという提言がありますけれども、そのきっかけづくりまで進めたかったと。3月以降、かなり模索したのですが、そこまで詰めることができませんでした。例えば各活動団体のところにヒアリングに行って、そして、魅力を売り出していく方策としてどうでしょうかというご意見を伺いにいきたいとか、そういうこともあったわけで、もっとほかにもいろいろな案があったのですが、5月にできるか、いや、終わってからの6月でもやりましょうかというところまで行きましたけれども、お忙しい方が多くて、なかなか時間も詰められなくて、ここまですなったということが大変心残りにしております。私もそう思っているところです。部会提案の今後の発展を願っているところです。

終わります。(拍手)

金光委員長 最後になりました。私はこの区民会議を6年にわたって、きょうでやっと終わりになるので、肩の荷がふとおりましたような感じがしています。6年間よく頑張ってやったなど。頑張ったというか、やめさせてもらえなかったというか、続けさせられたというか、そういう形でやってきました。

ことしのテーマにつきましては、たまたま自治会議で、生産年齢の女性が人口の中で50%を切った市町村は消滅するというショッキングな発表があつて、それを見たときに、麻生区はどうなのかなということで、早速、発表になったデータをチェックしてみたら、何のことはなし、25年ぐらいの間に生産年齢の女性のパーセントが約60%ぐらいになってしまうというデータが出てきて、これは大変だなど、女性が減るということは子供が生まれなくなるということで、子供が生まれなくなるということは、さらに高齢化が進むということで、25年ぐらいから高齢の方々の人口が減ってくるということになると、トータル的に人口が減ってくるという形になるわけですね。それは要するにまちの活性化が失われてくるということで、中には自治会だって年寄りばかりで、役員をやる人がいないということで、ボランティアと言っても、ボランティアをやっても、俺は腰が曲がらないからボランティアをできないという人の集まりに

なっは大変だなということがあって、今回こういうテーマを選ぶような形になったわけですが、やってみても、非常に難しかったなという感じがしています。

多面的な問題を包含している問題であって、1つの解決策でこれが解決されるわけではなし、少子化の問題も既に30年前からこういう問題が提起されてきたわけですが、なかなか少子化の勢いをとめることができない。ことしも出産のデータが出ましたけれども、やはり減少の傾向が出ているということで、依然として日本は出産の減少傾向がとまらないという傾向が続いています。

そういう意味合いで、今回こういう形の提案をできたということは、一面においては何かの問題提起をして、それがこれからそれに対する対策の具体的な指針になっていただければなという形で、お役に立てればいいなという感じで、今回我々は提案させていただきました。こういう面が市政の中でどういうふうにご利用されて、そして、さらにいい展開で政策が出てくることを切に私のほうからお願いしたいなというふうに思います。それが麻生区がこれからさらに発展して、活力ある麻生区に発展していくのではないかと思いますので、ひとつこれを機会にいい施策をどんどん生み出していただければと思います。

6年間、いろいろと協力させていただきましたけれども、勉強になったと言うとおかしいですけどね。私も80に近いですから、これは若い人が勉強になるといいのだけれども、年寄りが勉強になるというのはおかしな問題ですけども。いずれにしても、6年間頑張らせていただいて、自分自身の糧になったというふうに思っています。ありがとうございました。(拍手)

高倉委員 私のほうから1点忘れていました。これ、皆様方にご案内でございますけれども、きょうで全体会議が終わりますが、6月3日に企画部会がございます。さらに、我々の任期は厳密に申し上げますと6月30日までということでございまして、実は企画部会の広報担当の岡倉委員のほうからの提案で、6月13日から15日の間、この区役所の建物の2階のエントランス、ロビーで、ここで区民会議のパネル展をやろうということでございます。目的は区民会議の認知度アップということでございます。それとPRを兼ねてということです。中身は、提言の内容とか、審議経過が入ってくるかと思えます。具体的な内容の検討は、先ほど申し上げました6月3日の企画部会でやらせていただくということで、皆様方にご了解願いたいと思っておりますし、6月13日から15日の間、やっておりますので、皆様方、ぜひとも顔を出していただくというか、のぞいていただきたいということでご案内申し上げたいと思っております。よろしく申し上げます。

金光委員長 ありがとうございます。

それでは、本日の議事は以上になります。本日お忙しい中ご出席いただきました参与の皆様方からもお言葉をいただきたいと思います。来た順番ということで、月本参

与からよろしく願いいたします。

月本参与 皆様、お疲れさまでした。来た順ということで一言お話をさせていただきます。

今回の5期の皆さんは、政治も行政も、平成26年から、皆さん、委員でいらっしゃるのです、我々市議会議員選挙は昨年改選があり、また、県会も同様に改選があって、ついこの4月の人事異動で区長さんも新しくなられたという、その期間を2年間、いろいろな流れが変わる時期であるけれども、皆さんが一貫して地域で抱えている大きな課題として2つを大変丁寧に議論していただいたなと思いますし、5期が始まったときに、皆さん、いろいろな調査の方針を伺ったときに、大学に行ったりとか、まちへ出ていくという調査方針を示されていて、さらに、世田谷へ行かれたりとか、視察にも出向かれているという、今回の5期の皆さんは、まちに出て、足を運ばれる委員さんだなのというのは、きょう改めて感じました。

特に若い世代が住みやすいまちづくり部会のほうでは、私も37ですので、まだ若いかもしれませんが、上野委員同様、私もよそから来た人間でございますので、いいまちだというふうに思っていくというのも、これはもちろん、好きだから皆さんやりますけれども、逆に今回、客観的にデータをとって、やっぱりいいまちだったという結論をつけていただいたというのも、これもすごい素敵な効果なのかなと思います。

それから、ボランティアについては、ボランティア情報センターの一元化のお話もありますが、おっしゃられていましたので、いろいろなボランティア、種類もありますし、地域包括ケアシステムができてきて、掃除をするボランティアと言っても多岐にわたっていて、時間とか、それぞれの立場とかいろいろある中で、選択をしていける、そういった機会をどんどんつくっていくという意味での中核をこうだという方針をしっかりと示していただいたというのは、我々議会でも地域包括ケアシステム、私はちょうど春まで健康福祉委員会でしたので、さまざまな市民の皆さんの参加については議論、課題が出ておりました。そういった意味では、1つ大きな解決に向けてのヒントを皆さんのほうからご提言をいただいたなというのがきょうの印象でございます。

今期で退任される方々には本当にお疲れさまでしたと申し上げたいのと、今後もまた地域に帰っていただいて、特に今回、治安がいいというのが1つの魅力だということもあって、防犯カメラの設置補助が地域に出てくる今年度の予算づけもされましたし、そこを検討されてきた市民生活部長だったのが今回の区長さんでいらっしゃいますので、そういった意味では、麻生区の素敵な魅力というのをまたこれからそれぞれのお立場の中で引き出していただいて、今後もご指導いただければと思います。ありがとうございます。2年間、お疲れさまでした。(拍手)

石川参与 改めまして、神奈川県議会議員の石川でございます。きょうはありがとうございます

いました。

今、月本先生からお話がありましたとおり、私は昨年の選挙で初めて県議会議員にならせていただきまして、第4回の全体会議から出席をさせていただきました。そのときにもちょっとお話をさせていただきましたけれども、私は麻生区というまちは非常にいいまちだというふうに、ほかの地域から、私は山梨から来たのですけれども、そういうまちだというふうに思っています。先ほどの上野委員もお話がありましたけれども、私も子供が今高校2年生になりましたが、小学校のときからここに引っ越してきて、緑もあって、新百合ヶ丘を中心に、安心安全なまちであり、また、東京にも近いということで、そのときはサラリーマンをしていましたので、小田急線で、先ほどお話がありましたけれども、神奈川県民みたいなお話もある中で、そういうサラリーマン生活をしていた中で、麻生区というのはいいいまちだというふうに思っています。

委員の方々のご挨拶の中でもありましたけれども、民生委員の話もありました。ここの12月が多分改選期になると思いますけれども、私も神奈川県で質問をさせていただいたときに、まだまだやりたいと、自分自身は動けるのだという方をどうやって民生委員になっていただけるということを今神奈川県でも取り組んでいます。川崎市も非常に欠員が多い政令市であるというふうにも伺っていますけれども、県も含めて、何とか皆さんと一緒に地域で活躍したいという方がいらっしゃるの、そういう方とまたまちづくりを一緒につくっていったらなというふうに思っています。私は途中からでしたけれども、2年間、委員の皆様、大変お疲れさまでございました。今後ともまたよろしく願います。ありがとうございました。(拍手)

老沼参与 委員の皆様、闊達なご議論、本当にお疲れさまでした。そしてまず、遅参をいたしまして大変申しわけございません。

私も分区する前の多摩区に住んでおまして、分区を迎えたときには、一旦、大学で岡山に行き、今、震災が起こっている大分県のほうに住み、そして、今、麻生区にもう1度戻ってきたという流れがございます。戻ってきたときには、新百合ヶ丘の駅も発達して、人が集まる場所、住みたい場所、そういったものが方針が1つ確立された、そういった時期に私は戻ってきたのかなと強く感じております。

感じるだけではなくて、自分の身でやってみてどうなのかということが私のスタンスとしてありますので、まずボランティア活動にしましては、多くある中ですが、今私の中で、芝生の管理でありますとか、駅前のごみ拾い、あとは落書き消し、地域の防犯の見守り隊と一緒に参加をさせていただいております。先日、麻生の落書き消しに参加させていただいたのですけれども、田園調布大学の生徒さんが1人で自分もやりたい、どういうものか見てみたいので、きょう一緒にさせてくれませんかということで、飛び込みでまいりました。その際に新百合ヶ丘の周りを一緒にやったの

ですけれども、消せたということの成功体験、またはそこを通りかかった方に、きれいにしてくれてありがとうという声をかけてくれることのありがたさ、そういったことがポイントになるのかなと私は思っております。ですので、ボランティア活動というのは、そういった小さな感謝であるとか、小さな小さな成功体験の積み重ねがなせるわざだと思っております。

そしてまた、健康寿命の話になりますと、麻生区のスポーツ団体の方で、ことして101歳を迎える方がスポーツに興じておられて、毎週足を運んで、皆さんと一緒に楽しむことを生きがいとされている方もいらっしゃいます。そういった生の声、こういう方がいるんだよ、ボランティアをしてみたらこういうふうなことがあったよという情報の発信の仕方をうまくやっていくことが、これから一番大事なのかなと思っております。

これは最後になりますが、平成28年熊本大震災の話になりますが、東日本大震災の教訓がどこまで生かされたかということで比較して私は考えますと、例えば避難所の運営で食中毒が発生してしまった、エコノミー症候群が発生してしまった、デマが流れた、ボランティアがたくさん行ったけれども、打ち切りですと言って帰されてしまったとか、たくさんまだまだ課題がある、教訓を生かすということにまだフェーズが入っていないのかなということがございます。こういった皆様のボランティア活動であるとか、住みやすいまちづくり、これというのは私たちがまだ経験したことのない未曾有の大震災に関しては必ず生きてくるものだと思いますので、こういった活動を、毎日毎日、いつ地震が来るんだろうと考えているのはちょっと大変だと思うのですけれども、ボランティアをする中で、最後の5分だけ、ここ今、この瞬間に地震が起きたらどうしようかということを考える、そういったことだけでも積み重ねが大きくなっていくのかなと思います。麻生区のこの30年余の積み重ねがこれからの発展につながってくると思います。きょうで一旦一区切りになるとは思いますけれども、ぜひ今後も皆様のお知恵を拝借しながら頑張っていきたいと思っておりますので、よろしく願いたします。本日はまことにお疲れさまでした。(拍手)

勝又参与 2年間本当にお疲れさまでした。中でおっしゃったように、区民会議で今回新たなテーマを決めるときに、この間ずっとやってきているので、新たなものはないんじゃないかなというふうなところから、でも、それぞれが意見を出し合って、テーマを決めて、取り組んで、2年間の中で、この麻生の魅力を改めて知ってということだとか、あと、ボランティアについては、人のためではなくて、結局、やってみれば自分のためということもあって、人のつながりもできるということで、1つすると、2つ3つといろいろなことをやりたいというふうに思うことは、ここの中だけではなくて、私の地域の周りの方からもよく言われることです。ですので、1つのことを取り上げて、ボランティアをしたりとか、いろいろな取り組みをするということが、

いろいろな形で広がっていくのだなということをすごく感じているところです。

麻生の魅力、中で、麻生に住んでいてよかったというか、やっぱり麻生で生まれて育ってよかったという話もありましたけれども、私も麻生区の魅力というのは、緑があって、芸術も魅力的だしということが、ふだんというか、このごろすごく感じるようになって、住み始めているときはそうではなかったのですけれども、ほかの地域というか、麻生区以外のところの川崎市の方々と話をしていると、麻生区の魅力というのはやっぱり環境がすぐれているということを改めて最近によく言われるようになりましたので、そここのところの魅力もさら広げていきたいなというふうに思います。

きょう報告があったかと思うのですけれども、2年間のまとめをぜひ市政に生かしてほしいという最後のまとめの話がありましたように、私たちもこの間、参加できないこともありましたけれども、この取り組みを胸に市政に反映させていくために頑張っていきたいなというふうに思いますので、今後とも引き続き、この2年間の皆さんの活動がさらに今度地域のいろいろな団体のところに戻ったときに、活躍のきっかけとなるように願って、お礼のご挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

(拍手)

木庭参与 皆さん、きょうは長い時間お疲れさまでした。木庭理香子でございます。私、きょうは農業委員会と重なっております、遅参をいたしまして、申しわけございません。

先ほど来、麻生区に生まれてよかったというお話を伺ったのですけれども、私は恐らく今現職の中で唯一地場産の麻生区生まれの麻生区育ちの議員として、今も勝又委員からお話がありましたけれども、麻生区の残されている自然が大分減ってはいますけれども、まだまだ残されている、これをいかに次世代につないでいくのかということについて、私はしっかりと力を入れて頑張っていきたいと思います。

今、到着したばかりで、皆さんのお話も余り伺えない中で、この5期の報告書を拝見させていただきました。この中で空き家の利活用ということでご提案があったということがわかったのですけれども、今年度、私はまちづくり委員会の委員長をさせていただいております、空き家条例なんかについても真剣に考えていかなければいけない時期に来たなというふうに感じておりますので、皆さんがなさった調査、皆さんからの提言をしっかりと生かして、川崎市の条例づくりにも利用させていただきたいと思います。麻生区の皆さんの提言は今までも子育てフェスタであったりですとか、川崎市に影響を及ぼす提案を皆さんされてきたなというふうに感じております。今年度で終わってしまう方もいらっしゃると思いますが、次年度引き続きやっていただける方には、また川崎市の先進的な区民会議を皆様に行っていただきますようお願い申し上げます、一言ご挨拶とさせていただきます。2年間本当にお疲れさまでした。(拍手)

金光委員長 温かいお言葉、ありがとうございました。これからも引き続き、区民会議は

続きますので、また側面からいろいろなご助言をいただければ大変ありがたいなと思います。よろしく願い申し上げます。

それでは、次に、北沢区長よりご挨拶いただければと思いますので、よろしくお願いいたします。

区長 皆さん、大変お疲れさまでした。きょう、第5期の最後の全体会に私も出席ができて、大変によかったなというふうに、皆様に感謝申し上げます。2年間、何回皆さんにお集まりいただいたのかなということでは、50回を超えるというふうに聞きました。各部会、若い世代が住みやすいまちづくり部会、そして、市民活動・地域活動の活性化部会、それぞれの部会のテーマに調査、審議、半端じゃなく歩いたり、調査したりということ、データもしっかり出されているし、説得力のある報告をいただきました。そして、企画部会では、全体のことですとか、広報のあり方、区民会議ニュースの発行も真剣に考えていただいている、本当にありがたく思います。普通であれば、この期の締めが年度末だとしたら、私は提言書だけを見て、これからどういうふうに反映させていけばいいのかなというふうにみんなと相談していくところなのですが、部会の報告をいただく中では、皆さんの本当に強い熱い思いがわかりましたし、目的を持ってテーマに臨んで、こういう提言をしていますよということが聞いたことが何よりです。そして、お1人お1人がはっきりとした形でどういう形で臨んで、それぞれに感じたことはいろいろなのですけれども、それが本当に貴重だったなというふうに感じさせていただきましたので、それを聞いたのと聞けないのでは大違いだなというふうに思います。これは提言書、6月にまとまるということですが、内容を把握させていただきましたので、本当に生かしていけたらというふうな思いであります。

若い世代が住みやすいまち麻生を目指してというところが、既に若い世代には魅力的な麻生区なんだねというところもすごく刺激的なお話でしたし、ボランティアも2000名の方が毎年リタイアされて地域に戻ってくるという話もよかったですし、その半分がボランティア活動というか、自分の力をどこかで生かしたいと思っているというお話もすごくよかったですと思いました。勉強させていただきましたありがとうございます。

また、先ほど石井委員からは、かかわった企画課の職員のことを褒めていただきまして、ありがとうございました。ただ、皆さん、くすっと笑っていたのがちょっと気になったところですが、引き続いて、第6期に向けて、第5期で積み残したというお話もありましたけれども、そういう形がどういうふうに引き継いでいられるのかなどもまた相談しながら進めていく形になると思いますが、委員の皆様を中心に進めている区民会議だなというふうに思いました。私は川崎区で副区長、それから、企画のほうも担当していた経験から、麻生、すばらしいなと思いました。1つそれは

感想でしたけれども、そういうことを提言いただいたものを形にしなければ、絵に描いたもちになってしまいますので、今後とも皆さんと協働でこれは進めていかないとできないこともあると思います。行政が一生懸命やらなければいけないこともあると思いますけれども、そういう気持ちで職員も一丸となって取り組んでまいりたいと思いますので、今後ともよろしくお願ひしたいと思います。

この期で終わられる金光委員長さん、本当にお疲れさまでございました。それから、今期で終わられる委員の皆さん、本当にお疲れさまでした。ただ、まだ麻生区にいらっしゃる限りは、区民会議もずっと見ていただきたいし、力をかしていただければと思います。また、6期引き続いてという委員の方もいらっしゃるかと思いますが、どうぞよろしくお願ひいたします。本当にきょうはありがとうございました。(拍手)

金光委員長 ありがとうございます。

それでは、この後のスケジュール、事務局のほうから説明をいただきたいと思ひます。

事務局 事務局のほうから事務連絡をさせていただきます。

この後、委員の皆様におかれましては、写真撮影を行います。こちらの会議室の後ろのほうで撮影をいたしますので、いましばらくお残りいただければと思います。この後、5時15分から懇親会を開催いたしますので、ご出席される方は4階のレストランあさおのほうへお願ひいたします。

事務連絡は以上になります。

3 閉会

金光委員長 これで第8回全体会議を終了いたします。どうもご苦勞さまでした。(拍手)

午後4時58分閉会